☆伊賀市立青山中学校区の取組

◆事業概要

１　中学校区の現状と課題

青山中学校区では、過疎化・高齢化・少子化が進んだことにより、地域のつながりも希薄になり、子どもたちの生活や関係性にも大きな課題が見られます。具体的には、将来への夢や希望、学習に対する意欲がもてなかったり、自尊感情が低く自己の存在に価値を見いだせなかったりする子どもの姿があります。

そのため、青山文化センターを青山の人権文化発信の拠点として、様々な課題をかかえる子どもたちが地域住民と共に、反差別の仲間としてつながっていくための取組を進めています。

２　課題解決のための主な取組

(1)地域のつながりをつくり、子どもたちの出番を創出する取組

①青山文化センター文化祭

「このまちが好き～人と人がふれあう地域をめざして～」というテーマで文化祭を開催しました。

その中で、小学校の子どもたちは、「青小ほんわかコーナー」を企画・運営し、参加者に夢を書いてもらい大きな木をつくりあげるブースを開いたり、「人権○×クイズ」を行ったりしました。中学校の生徒会は、「青山中　みんなで考え隊」というブースを開き、「楽しくて笑顔あふれる学校や地域にするためには」というテーマで参加者にメッセージや意見を書いてもらい、パッチワークメッセージを作りました。

文化祭当日の子ども達の活躍を見た地域住民が、「説明、よくわかったわ。」「○×クイズ、がんばったね。楽しかったよ。」と声をかける姿もあり、子どもたちは達成感や成就感を味わっていました。

②青山人権のつどい

青山ホールで「2013 人権のつどい」を開催しました。

そこで、青山小学校は、歌「みちくさ」と紙芝居「ええやん　そのままで」を発表し、青山中学校は、地域に暮らす方々との出会い「青山めぐり」で感じた「地域の方々の優しさ」や「ふるさとを愛する思い」等を発表しました。

多くの地域の方々と小中学生が、共に作り上げる集いとなり、「自分たちが期待されている」「共にこの地域に生きている」ことを感じられる取組となりました。

(2)子ども支援ネットワーク委員会等の研修

①青山小学校ヒューマンフェスタ

小学校６年生と保護者、地域住民で「青小ヒューマンフェスタ」を開催しました。

人権学習で地域の方から聞き取ったことやそこから考えたこと、自分を見つめて気づいたこと等を発信し、保護者や地域住民が意見や感想を返し、共に人権について考える機会としました。

②人権フィールドワーク

小学校の児童、保護者、ＰＴＡ、地域住民で浪速区フィールドワークを行いました。

１月開催予定の人権コンサートに太鼓集団「怒」を招聘するにあたり、大阪人権博物館で浪速の歴史について学習したり、コリアタウンを散策し韓国朝鮮の文化にもふれたりしながら事前学習を行いました。

③青山中学校人権のつどい（保護者のつどい）

２月に「青山中人権のつどい」を開催しました。今年は、大台町教育委員会の前田加津代さんの講演後、保護者のつどいを開催し、子どもたちの発信を受け、参加した大人が交流を行いました。

(3)進路保障と自尊感情を育む取組

①夏休み学習会

青山文化センターで青山地域在住の教員ＯＢが、青山文化センターの児童館活動「やまびこ活動」の参加者を対象に学習会を行いました。普段、学習に集中しにくい子どもが、下の学年の子どもにやさしく教えたり、地域住民がそばに座ることで集中して学んだりする姿が見られました。保護者から「『今日は楽しかった。いっぱい勉強を教えてもらってよかった。』とうれしそうに帰ってきました。」という声をいただきました。

◆実践を振り返って

本事業をきっかけに、多くの地域住民や保護者と共に取組を進めることができました。活動の中で、学校と地域、学校と保護者、保護者と子ども、保護者と地域等が、人権を中心に据えた話ができ、今まで以上につながることができました。

教育的に不利な環境のもとにある子どもの現状は厳しいものがありますが、子どもたちが自主的に活動する場を設定し、様々な方から評価をもらうことで、子どもたちは自信とやる気をもつことができました。